「グローバル時代の隣人」

皇學館大學名誉教授の松本基子さん（昭和３０、文卒）に講演して頂きました。元大和難民定住促進センターの初代所長としてベトナム戦争時代のボートピープルと言われる難民のサポートに関わるなど、外国籍の人々の支援をしてこられました。

まず、聴衆に問いかけます。「あなたは移民をうけいれますか」と。挙手した人は 1/5。年々増加する多国籍の人々と私たちの関わり方の現状を指摘されました。
必死に日本国内で生きて行く姿勢があった初期の頃とは変わり、彼らを取り巻く環境の変化の中で、私たち日本人が求めるのが主に労働者、それも技術者としての存在である現実を受け、彼らは介護現場にも進出するようになりました。が、依然、彼らへのハードルを高くしており、結局彼らは容易に受け入れてくれる国を選ばざるを得ない現状を憂いました。

日本の事は日本人で賄えないというのが現実なのに、異なった歴史・文化・宗教などを受け入れる体制が出来ていない現状では、滞在中の労働者の生活形態の変化などを考える余裕もない。群馬県大泉町では生活保護者の３人に１人がブラジル人という。この中で育つ子どもたちのアイデンティティの確立も困難ではないかと思われることにも言及されました。

「今後求めるのは、文化の多様性を受け入れる豊かな思想の出来る社会でしょう」の言葉に、まだまだ“隣の人は日本人”が当たり前の感覚の私たちも考えねばならないことだと、再認識させられました。

厚木稲門会会員が住むエリアは、外国籍の人が多く住んでいます。それぞれの行政も使用言語を多様化させるなど努力していますが、私たちも彼らと同じ地域に住む住民として共生する道を学ばねばならないと感じました。

（S41 文　堀　美知子）